

「託宣集」によれば、八幡神は韓国の神であったが、北九州に渡来していた秦氏の村に「八流の幡を天降して、吾は日本の神となれり」と託宣したという。八幡宮の本来の祭神

122

旅歴米子



米子城主も祈願

とみられる神像が本殿床下から発見された。うち一体は片ひびぎを立て、韓国の風俗を伝えている。神宮皇后像である。紀氏(進氏・巨勢氏)は後に箕村に移り、八幡宮も現在地に移った。後醍醐天皇をいただいた名和氏が船上山に旗揚げしたとき、巨勢宗国は帝の武運を祈願して感状をいただいた。天皇は八幡宮の託宣を喜ばれたのである。

時代は下って江戸時代初期、米子城主中村一忠もまた八幡宮の託宣を得たく、三十六歌仙を寄進している。一忠の祈願がいかなるものであったのか、歴史的ナゾ解きの興味は尽きない。

八幡さん

はアメノヒボコの系譜のカラクニオキナガタラシヒメであったが、日本の守護神に変質したのに伴い新羅征討の神功皇后名をストレートに祭神名とした。「神

功皇后紀」によれば、皇后は自ら神主なり、武内宿禰に琴をひかせ、琴の前後に「千八なし」としな。現在の宇佐八幡宮(大分県)の祭神は神功皇后、応神天皇、比

売大神の三座で、完全なまでに日本化し、その分社は約4万3千余の分社がある八幡さんもその一社で、平安中期ごろ長者原に鎮座していたと伝える。紀氏の創建になるのだろう。最近、平安中期の作

(文・杉本良巳米子市歴史館運営委員長、絵・加藤哲英米子美術家協会会長)

(隔週木曜日掲載)

中 海 域 版 圏

情報はこちらへ

- 西部本社 ☎0859(34)8815
- 境港支社 ☎0859(44)6330
- 日野支局 ☎0859(77)0001
- 松江支社 ☎0852(25)3385
- 安来支局 ☎0854(23)1825